

立命館大学考古学論集 7

Digging Up



立命館大学考古学・文化遺産専攻

2022

序

これは、ダミーの文章です。この「問題提起」ということが、序論の第一の役割であるが、それに付随して、なぜここでその問題を取り上げるのかを述べる必要もある。

「テーマの意義」の説明である。その場合、この問題が従来どのように論じられてきたかを示すことによって、その説明とすることが多い。すなわち、研究史の整理に基づく問題点の指摘である。ただし、研究史については、その整理・展望自体がかなりの記述量を必要とする場合もあり、そうした時には、これを序論の中に組み込まず、本論の中に一章を設けて記述することもある。あるいは、研究史の論述そのものが一編の論文となることもある。

議論の範囲の限定ということも、序論において説明しておくべきことのひとつである。ある一つの問題を取り上げた場合、論点がかなり絞られたものであっても、そのすべてについて論ずることはむずかしい。時間の制約、論者の力量の制約などにより、部分的にしか論じられないのが普通である。そのような時、どこからどこまでを議論の範囲としたのかを述べるのである。

これは、完璧にはなり得ない論文の「免罪符」となるものであるが、そういう消極的な意味だけでなく、その論文の議論が成り立つ条件を示すという意味で、学問的な態度でもある。

考古学・文化遺産専攻主任

矢野健一

目次

1. 2022 年度調査概要報告

篠窯の調査	1
-------	---

2. 研究論文

縄文時代前期の土器編年	10
古墳時代の前方後円墳	26
戦跡遺跡の分布からみた様相	31
史跡整備と市民参加	45
兵庫県赤穂市田中遺跡の再整理	55

3. 年報

卒業生・修了生数、文化財職就職先など

立命館大学考古学論集 7 Digging Up

発 行 日 2022 年 10 月 1 日

編集・発行 立命館大学考古学・文化遺産専攻

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学文学部考古学研究室気付

TEL 075-465-1111 (代) 内線 3365

印 刷 所 北斗プリント社

住所・電話
